

会 議 録

1 会議名

平成28年度第3回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

自主的審議事項について（公開）

3 開催日時

平成28年7月12日（火）午後7時00分から午後8時26分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 高橋誠一（会長）、安達ユミ子（副会長）、小林奎一、佐藤寿美子、
佐藤峰生、坪田 剛、寺島和枝、荷屋和夫、平野宏一、山田ヒロ子、
横田正美（欠席1名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：関川センター長、荒木係長、星野主事

8 発言の内容

【関川センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【高橋会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：佐藤寿美子委員に依頼

議題【協議事項】自主的審議事項について、事務局へ説明を求める。

【星野主事】

前回の会議で副会長から、「今後の地域協議会としての方向性を話し合う会を設けたほうがいいのではないか」というお話をいただいたことを受け、本日は、第1回の会議でも説明したが、地域協議会の自主的審議の進め方について改めて説明させていただき、前期の谷浜・桑取区地域協議会で行われた自主的審議の経過について説明をしたい。

その後、委員の皆さんで地域の課題等について意見交換を行い、共通認識を持っていただき、今後の地域協議会をどのように進めていくかを協議していただきたい。

・資料に基づき説明

【高橋会長】

いただいた資料を見ると、会議の合間を縫いながら、いろいろな意見を出し合ってきたのだと実感したが、これを振り返りながら、皆さんから意見等があれば伺いたい。

【安達副会長】

子どものことを考えていくと、それに付随して、大人の問題も出てくるが、「子育て支援」とは別に「高齢化対策」みたいなもの考えるかと言うと、それは不自然になると思う。昨年は、谷浜・桑取地域振興協議会の方々と意見交換をしたが、もっと地域の方々が思っていることを掘り起こしたいと考えている。

例えば、私は、女性の意見を聞きたいと思っている。それが「子育て支援」と言えるかは分からないが、次世代のことを考えて行く場合、そのような機会もあっていいのではないか。

自主的審議事項として、「子育て支援」について審議を進めてきたが、「新しい保育園が出来たから、それで良い、中学校も複式にならないからそれで良い」という訳ではない。

課題を掘り下げていくためには、もっと、地域の方々から話を聞いたほうが良いと思っている。

【高橋会長】

「少子化」と言われても切実感を抱けていない部分もある。資料No.3を見ると中学2年生と3年生は4人及び5人で1クラスになっている。ここにいる委員の方々は、自分の子育てが一段落して、ピンと来ない部分もあると思うが、このことから考えると、集落が消滅していくような気がする。

平野委員は、限界集落になってしまうという意見を出されていたと思うが、これに対してはどうか。

【平野委員】

個人的な意見としては、あとは、動くしかないと思っている。とにかく、人口を増やさないとどうにもならないので、空き家対策を進めたほうがいいと考えている。

【高橋会長】

他に意見等はあるか。

【坪田委員】

資料No.3について、問題を提起させていただきたい。

すでに谷浜小学校では、一部が複式学級になっている。先生方から、「1学年違うだけでかなりの差があり、クラスが一つになれないので、非常に難しい」と聞いた。表面上はうまく繕っているが、先輩・後輩の差が生じている。

統計の中で複式学級になるということを強調するのではなく、複式学級をなくすためには、どうしたら良いのか、ということを経済委員会等から考えていただきたい。

学校の後援会をやっていると、先生から、「こんなに素晴らしい環境の中で育つ児童は、非常に羨ましい」ということを言われることが多い。では、何故、この環境の良さを、上越市内にアピールしてもらえないのか。今は交通機関が発達し、利便も良くなってきた。実際、この土地を求めて、移住してきた方もいる。保育園にも区外から登園している子もいる。それらを考慮し、複式にならない方法は何かないのか。

上越市では、有田地区に新学校を造る予定だが、人口の多い地域の対策以外に、過疎化になっている地域において、複式学級にならない方法を何か考えていただきたい。保護者にも、それぞれの考え方があると思う。それを考慮できれば、数人は当区を気に入ってくれるかもしれない。そういった努力は今まで為されていない。

資料には、「ここは何人だから複式学級。何年後は、こうなります」とあるが、それはあくまでも当区のみで考えており、上越市全体で学区を超えて児童が入学できるようになれば、複式学級が少しでも緩和できるのではないか。

【高橋会長】

当区に来てもらうとなると、平野委員が言った空き家対策に繋がってくる。

私が町内会長を務めていた時に、「学校の近辺に空き家がないか」という問い合わせを受けたことがあるが、その時は、空き家についての情報を把握していなかったため、答えられなかった。

教育環境を求めるニーズが全くないかと言ったら、ないわけでもない。

【坪田委員】

当区は、保育園、小学校、中学校が近辺にあり、一貫校のような状態にある。平野委員が云っていた、人口減少についても、教育環境以外の他の要因があるかもしれない。

【小林委員】

私は、上越市に希望する就職先がなかったため、転出し、定年退職を機に、ゆっくりと過ごせればと思い、当区に帰ってきた。私の子ども達は、県外で生まれ、県外で育っているので、こちらに帰ってくる様子はない。

私自身は、当区のどこに魅力を感じて、どういう人たちが来るのか、ということを考えていた。一番の課題は雇用の問題である。就労先があれば、若い人たちが来るのだろうが、今、話題にあがった空き家があっても、仕事がなければ来ない。今は、上越市全体が当区と同じ状況にあると思う。上越市以外から、当区に来る、というのは考えにくい。

【高橋会長】

私の知り合いで、東京から丹原に移り住んだ方がいたが、とうとう、東京へ帰ってしまった。地域との繋がりや風習、町内の仕事が煩わしく感じてしまったようで、前期の会議でも「若者が出て行くのは、そういう原因がある」と発言された地域の人もあった。

桑取地区は若者がたくさんいるように思うが、どうか。

【山田委員】

子どもの数も多いと聞いている。

【横田委員】

桑取地区は全て限界集落だと思う。子育ての議論も20年前くらいから話がなくなっている。残った住民で、お年寄りが中心となり、どれだけ楽しくできるか考え、助け合いながら生活している。出て行った人達は、盆や正月には帰ってくる。そういう意味では、今住んでいる方たちが不自由なく、過ごせばいいと思っている。

今いる谷浜・桑取区の間人だけで、子どもだけ増やせる訳ではないので、保育園、小・中学校の近辺で、人を呼び込めるような働き掛けをしてもいいのではないか。その近辺なら、国道も近いし、私の住んでいる所から見れば、非常に楽だと思う。むしろ、谷浜地区の人口が少なくなっているということを意外に思う。

【小林委員】

桑取地区は、農地が区画整理され、番地等が明確であるが、南部地区は、公図が明治

26年くらいからのままであり、実態とかけはなれているため、売買ができず、追跡調査もできない。相続は、名前を変えるだけなのでできるが、現状だと土地の売買が出来ない。家を建てたいと言っても、田んぼ自体の戸籍がないため難しい。

【横田委員】

数年前に、十数町を使い、米作りに取り組む法人が設立された。

【小林委員】

有間川近辺は、それができない。

【横田委員】

現在の子育て世代の親たちも、そこで働いたり、自分で事業をしたりしながら生活している。その方たちがいる間は、人口は保たれると思う。

【小林委員】

谷浜地区は、あと10年すると、農業をやる家がほとんどいなくなる。後継者もいない。

【安達副会長】

資料で、町内別の世帯数と人口が示されているが、過疎化の進行具合は、長浜町内が大きいという話を聞いたことがある。長浜町内は、ここ何年かで減ってきているのか。

【山田委員】

かなり減っていると思う。

【坪田委員】

昔は200世帯近くあった。過疎化の進行具合は高い。

【安達副会長】

バスや電車も利用しやすく、すごく便利だと思うが、過疎化率が高い理由は何だと考えているか。

【坪田委員】

「住みたい」という方もいる。しかし、一生住むとなると、借家ではなく、自分の土地に家を建て、住みたいと思う。そのように考え、区外へ行かれた方は、相当数いるのではないか。

【山田委員】

今は、少し考え方が変わっている。若い人は、「長浜より町場のほうが便利だ。どうせ、土地を買うならば、便利な所が良い」と思っているようだ。

私は長浜の入口に住んでいるが、もう少ししたら、誰もいなくなるのではないかと思っている。今年の9月に、1軒引越すと云っている。

【安達副会長】

鍋ヶ浦はどうか。

【佐藤峰生委員】

鍋ヶ浦も、子ども世代が残らないので、他の地域と同じである。子どもの数が少ない直接的な原因は、地元で若い世代が残らないことだ。「息子が残って、嫁を貰う」ということがない。

【山田委員】

私も子供がいるが、別々に住んでいる。一緒に住めば、子どもも増えてくると思うが、現在は多くの方が親と別々に住んでいる。

【佐藤峰生委員】

上越市内に仕事があるなら、当区は通勤できない距離にある地域ではないが、若い世代との価値観の違いだと思っている。私たちは、住むにも仕事に行くにも良い地域で、自然豊かな環境も、自宅に帰ると仕事の疲れを忘れさせてくれるような良い所だと思う。親と一緒に住むことが嫌だという気持ちも分かる。

また、二世帯住宅を建てて一緒に住むとなると、子ども世代の考え方が優先で、親が妥協せざるを得ない現実がある。

【坪田委員】

今、人口を増やすという課題以上に言われているのが、交流人口の増加である。交流人口を増やしても人口が増える訳ではない。一時的に人口が増えるだけでは意味がないので、全区の地域協議会で人口の減少をどうするかを考える必要があると思う。

【安達副会長】

先ほど坪田委員が言っていたが、学区を自由に選べる構想が上越市にあるか。

【坪田委員】

成績が優秀な生徒がたくさんいる。日常生活の挨拶も素晴らしいものを持っていると先生自体が言っている。では何故、それを全面的に教育委員会へ訴えていかないのか。そういう人を一人でも多くするための教育の仕方をしようとしめないのか。そこが疑問である。

【高橋会長】

以前、谷浜小学校から直江津の中学校へ進学し、野球をやっていた生徒がいた。その際、簡単に学区を変えることが出来るのかという話があったが、教育委員会では、学区は決められているものの、特別な事情で本人の希望があれば、融通を利かせる判断をする、という言い方をしているので、親御さんが「良い環境で教育をさせたいので、潮陵中学校へ通わせたい」と申請すれば、可能性はあるかもしれない。

自主的審議を進める過程で、以前、下綱子地区に移住して来た方がいたことから、その方から意見を聞いた、という経緯がある。ただ、その後、それが広がっていかなかった。

【坪田委員】

せめて、野球、卓球、バレーボール等が1チーム出来るくらいの生徒数が欲しい。

【高橋会長】

寺島委員は、女性から見てどう思うか。

【寺島委員】

子どもが手から離れているので、学校とも付き合いがないが、今、中学校の学区の話があったが、他地域に広げるような魅力が何かあるか。私も、この地域に来て20年以上経つが、海あり、山ありで、子育てするには、本当に良い所だと思って過ごしてきた。私の子どもが中学校へ通っていた時、1クラス15人だった。小学校でも全校生徒が100人程いた。子育てするにも良い人数で、和気あいあいと、みんな仲良くしていたと思う。先ほど、高橋会長が「野球をやりたいから他校へ行く」と話していたが、「体操をやりたいから大潟区へ行く」という子もいた。では、潮陵中学校に来てもらうための魅力は何があるのか、と考えると、あまりないように思う。

【高橋会長】

教育委員会が、各先生方に「どこの学校は良い」と言うのは、難しいと思う。やはり、保護者が魅力を感じるようなことを、地域から発信出来るか、ということが課題なのではないかと思う。

「たにはま公園ではなく、団地を造ればいい」、「福祉施設を造ればいい」というような意見は出たが、なかなかうまくいかなかった。清里区は、土地の面積が100坪以上あるが、土地の価格が安いので、高田方面に勤め、清里に土地を買った人が何人かいた。

【坪田委員】

あとは道路である。以前、荷屋委員も言っていたが、高田方面へ抜けられるきちんと

した道路があれば最高である。直江津にも行けて、高田へも行けたら最高の場所だと思う。

【高橋会長】

荷屋委員はどう思うか。

【荷屋委員】

難しい問題である。

【高橋会長】

上越市全体では人口が減ってきているが、その中でも、有田地区に新設校が出来て、小猿屋小学校が統合され、設備も良くなり、大きくなる。潮陵中学校も同じように統廃合されるとなると、どこと一緒にするのか、という懸念もある。そうならないためにも魅力づくりが大事である。

【安達副会長】

春日新田は子どもがたくさんいるが、すぐ隣の古城小学校、北諏訪小学校でも複式学級になっている。

【小林委員】

上越市全体が過疎化になってきている。

西戸野は32軒あるが、20年後は10軒あるかどうか。後継ぎがない。長浜や有間川は、それなりにいると思う。

【高橋会長】

有間川も子供は少ない。

【安達副会長】

「学校の魅力というのを発信したらどうか」という意見があったが、実際に中学校の方から話を聞いてみるというのはどうか。もし、区外へアピールするとなったら、地域を挙げてすることがあるかもしれない。複式学級にならないよう、谷浜小学校が存続するような希望の一つとして、そういうことが出来るのか。

【高橋会長】

谷浜小学校から直江津中等教育学校へ進学する選択もあるが、潮陵中学校とすれば、生徒数を増やす魅力づくりをしなくてはいけない。

子どもについては、地域の人たちが、どう子どもを増やせばいいのかを考えたほうが良いと思っている。学校側からアピールしてもらうのは難しい。

私は、小・中学校の運営協議会の役員をしているが、学校でも常に「子どもが少ない」という問題が出て、その弊害については、先ほど言ったように、クラブ活動が十分に出来ないということが、特に中学校では顕著に表れている。だからと言って、それを理由に子ども達を、どうこうするというのは無理がある。教育については、精一杯やることはやって実績を挙げている、という意味では、潮陵中学校は人数が少ないので、平均の問題もあると思うが、上越市内の中学校の中では、トップクラスだと思う。

だが、先ほどから言っているように、中学校の立場でそれをPRする訳にはいかないので、表現の仕方を考え、今までの実績等を見てもらい、判断してもらうしかない。そういうことを地域内で、どう発信していくかである。当区では、当地域協議会や町内会長連絡協議会等を含めて、情報共有がされていないように思う。

上越全体が少子化で、他区でも課題を抱えているが、我々は引き続き、いろいろな団体と関係を持ちながら「子育て支援」の協議を続けていきたいと思う。

今日は、谷浜・桑取区の現状を数字で示させてもらったが、今後も時間を見付けて追及していきたいと思う。子どもを増やすことも大事だが、お年寄りも元気にならないと駄目だと思うので、お年寄りに元気になってもらい、孫と一緒に当区で住みたい。となれば人口も増えてくると思うので、その辺も含めて知恵を出し合っていきたい。

【安達副会長】

女性の方の意見を聞く場というのは、あまりないと思うので、地域の女性を呼んで、意見交換会をしたらどうかと思うが、どうか。

【佐藤寿美子委員】

どれくらいの年代が良いか。

【安達副会長】

子供のいる世代と云わなくても、「お年寄りから元気に」ということであれば、60代くらいがいいのではないか。おじいちゃん、おばあちゃんが元気でいれば、田植えや稲刈りの時に手伝いに来てくれるかもしれないし、都会で災害があった時も食料を送ってもらえるかもしれない。若い世代を呼ぶのも良いが、当地域で頑張っている、それくらいの世代ではどうか。

【関川センター長】

女性の方を集めるためには、どこへ声掛けをしたら良いか。

【高橋会長】

学校のPTAには女性が多数いる。

【安達副会長】

各地域の女性に、地域協議会委員から声を掛けることも出来る。

【小林委員】

女性の方々から何を聞くのか。

【安達副会長】

「この地域をどんなふうに考えているのか。どうしたいと思っているか」ということである。

【寺島委員】

いろいろな世代で、どんなことを考えているのかを知りたい。育成会も女性の方が多く、子育て世代の方もいるし、そこから意見を聞きたいと思う。

【高橋会長】

我々も良い提案が出ず、禅問答のようになるので、一人でも多くの方から集まってもらい、いろいろと話し合っていけば、新しい考え方が出てくるのではないかと思う。

各町内会長から推薦してもらい、各町内、2、3人ずつ出ていただくという形になると思う。

【坪田委員】

地域協議会委員は委員としての立場があるが、何かの仕掛け役にはなると思う。それが途中で途切れてしまわないようにやっていけば、何か明るい兆しが出てくるかもしれない。

【小林委員】

開催するとしたら、何かテーマを決めていただき、あらかじめ設問を出しておき、それなりの準備をしなければいけないと思う。

【高橋会長】

では、会長、副会長、事務局で相談したいと思う。せっかく集まってもらったのに、何も話が出てこないでは困る。お互いに意見交換が出来る雰囲気を作りながら考えていきたい。

では、この件を頭に入れながら、議論を進めて行くことでよろしいか。

(異議なし)

私から1点、皆さんの意見を伺いたい。現在、学校では、「小・中一貫教育」を進めて

いる。実際に、運動会や文化祭も合同で行っているが、なかなか、そのことが地域の方々へは伝わっていない。是非、委員の方からも、学校環境や学校間の連携の取り方など、どのような取組をしているのか、ということを知りたいと聞いていただき、少しでも現状を知っていただければと考えている。自主的審議とまでいかななくてもいいが、そういう情報交換の場を持っていただきたいと思いますと考えているがどうか。

(異議なし)

では、副会長と事務局で相談し、進めて行きたいと思う。

本日は「子育て支援」について協議してきたが、他に何かあるか。今までの地域行事等は、地域活動支援事業で補助してきており、使い方についても配慮してきたと思うが、その辺を含めてどうか。

【安達副会長】

今まで、何年かやってきた中で、これまで採択した事業が、現在にどのように繋がっているかの検証等をしなくてはいけないと思っている。備品も購入したと思うが、適切に管理・運用されているのか。それが分かれば、新しく委員になられた方も経過がよく分かると思う。どのようになっているかをまとめる作業は、事務局へお願いしたい。

【関川センター長】

地域活動支援事業は、補助事業なので、実績報告書が出た時点で終わりとなっていた部分は確かにある。

すぐにお示しすることはできないが、少し時間をいただき、確認が取れ次第、皆さんへ報告させていただきたい。

【高橋会長】

全ての実績報告を出す必要はないと思うので、事務局で整理し、出していただきたい。

【平野委員】

今まで、いろいろな事業提案があったが、実施したところが、今、どのようになっているか見させていただきたい、というのもある。

【坪田委員】

これから、追加募集の提案が挙がってくるが、採決する前に見に行く、ということもいいのではないかと。

【高橋会長】

それもいいと思うが、平野委員が言ったように成果が目に見える所に行くのも良いと

思う。

【関川センター長】

採択前に現地を見に行くことは、提案から採択までの時間が短いため、難しい委員もおられると思う。平野委員が言ったことは、「視察」という形で、秋口に開催できると考えている。

【高橋会長】

では、それは、事務局から検討してもらい、秋口辺りに日程を考え、バスで巡回したいと思っている。

今回の話し合いでは、具体的な自主審議事項として詰めてこなかったが、必要に応じ、子育て支援以外にも、空き家対策等の支援等も含めて、いろいろ課題を考えて行ければと思う。

他に意見等がないため、自主的審議については終了とする。

次に「その他」について、事務局から説明を求める。

【星野主事】

今回のフリートークを踏まえ、今後、谷浜・桑取区地域協議会で審議したい課題があれば、本日、配布した「自主的審議に係る提案書」に記載し、事務局へ提出していただければと思う。

- ・次回の協議会について説明

協議内容：地域活動支援事業の採択審議

次回協議会の事務局案は8月17日（水）～19日（金）のいずれか。

【高橋会長】

— 日程調整 —

- ・次回協議会：8月17日（水）午後7時～

その他、何かあるか。

【星野主事】

- ・地域協議会委員の勤務先への協力要請について説明

【高橋会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。